

有珠山火山噴火 総合防災訓練

噴火を想定し

約400人が参加



負傷者を車から救出する消防隊員ら

有珠山噴火を想定した総合防災訓練が、10月25日、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町の3市町を結んで行われ、住民避難や情報伝達、救出活動の手順などを確認しました。

胆振総合振興局地域災害対策連絡協議会と有珠火山防災会議協議会が主催したもので、消防、自衛隊、警察、病院など55の機関と3市町の住民合わせて約400人が参加しました。

この訓練は、道が常時観測を行っている有珠山、雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、駒ヶ岳で順次訓練を実施していて、有珠山の訓練は、平成14年以來2度目になります。

伊達市のだて歴史の杜カルチャーセンターで実施された初動体制構築訓練は、札幌管区氣象台からの発表される警戒レベルに対応して、対策本部の設置から情報伝達、要援護者の避難、



負傷者の応急処置を行う医療関係者



避難のため自衛隊のトラックに乗り込む住民ら

住民への避難指示など一連の行動を確認しました。
壮瞥温泉に会場を移して行われた応急復旧訓練では、車両事故により車内に閉じ込められた負傷者の救出・救助を実施。多数の負傷者を想定し、医師らが治療の優先順位を決めるトリアージを行い、応急救護から救急搬送への連携を確認しました。